■5年間の変化

・導水期間中

DO　：尾頭橋まで増加
BOD：小塩橋と納屋橋で減少
SS　：納屋橋まで減少

⇒ 堀川中流域（概ね納屋橋付近）まで水質の改善を確認
（特に小塩橋では、改善の度合い（DO、BOD、COD、T-N、T-P）が大きかった。）

・導水停止後

DO　：導水中と比較して減少傾向にあるものの、導水前と比較すると、増加の状態を維持
BOD：概ね、導水期間中と同程度を維持
SS　：概ね、導水期間中と同程度を維持

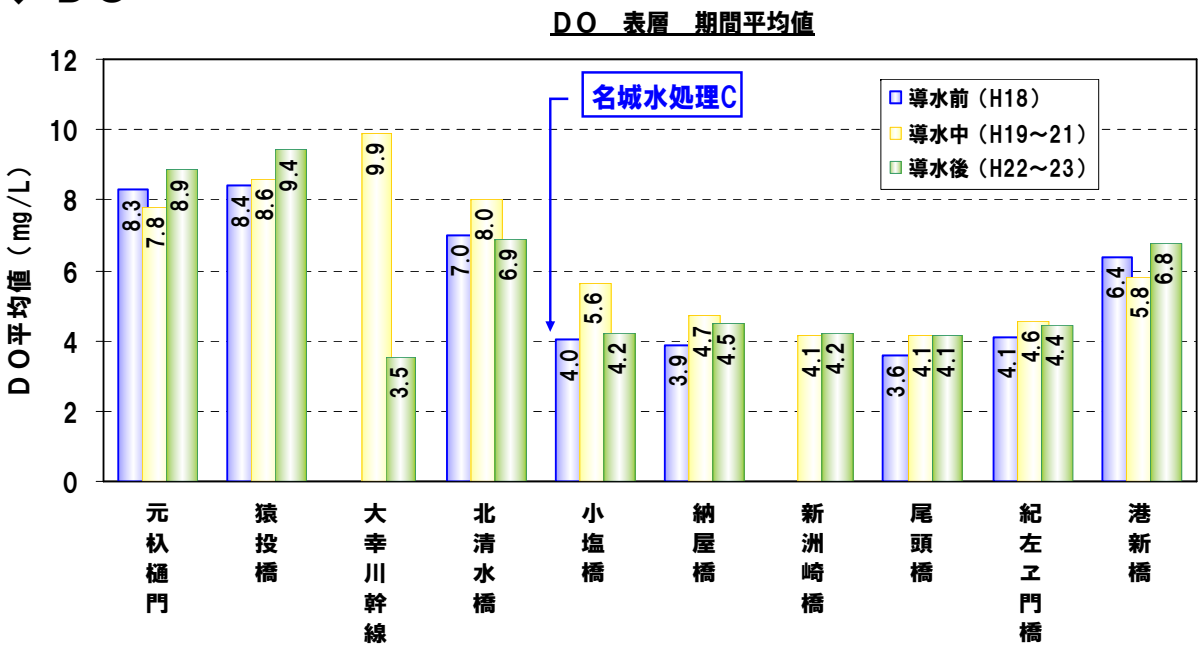
⇒ 堀川中流域（概ね納屋橋付近）までは、導水中との比較で、水質が若干悪化傾向にあるものの、導水前と比較すると良好な状態を維持。
これは、名城水処理センター高度処理施設の導入(H22.5～)、堀川右岸滞水池の設置(H22.9～)など新たな下水道施策の推進による放流水の水質向上や庄内川の水質が良好(H23)であったことなどの影響が大きいと考えられる。

注）水質シミュレーションの結果、紀左ヱ門橋から下流の区間は、社会実験による水質の改善効果が少なく、海域（名古屋港）の影響を強く受けていると考えられた。このため、紀左ヱ門橋と港新橋は、現時点の評価では社会実験による改善の区間に含めない。

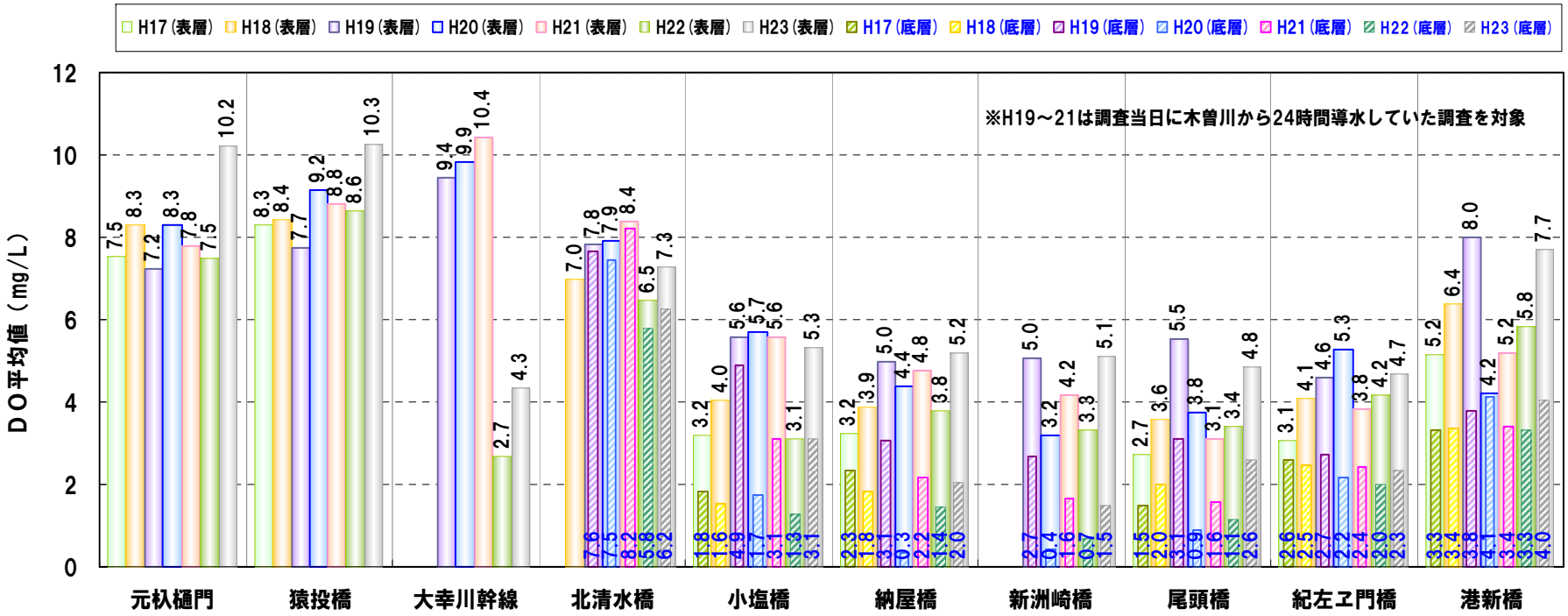
	北清水橋 導水前→導水中→導水後	小塩橋 導水前→導水中→導水後	納屋橋 導水前→導水中→導水後	尾頭橋 導水前→導水中→導水後
ＤＯ	7.0→8.0→6.9	4.0→5.6→4.2	3.9→4.7→4.5	3.6→4.1→4.1
ＢＯＤ	2.5→2.6→2.4	6.0→3.2→3.1	4.1→3.2→3.6	4.2→4.2→5.7
ＳＳ	9.7→6.7→7.3	11.1→8.3→8.8	9.2→7.4→7.8	7.1→8.0→13.9

導水前：平成18年度
導水中：平成19～21年度の平均値
導水後：平成22～23年度の平均値

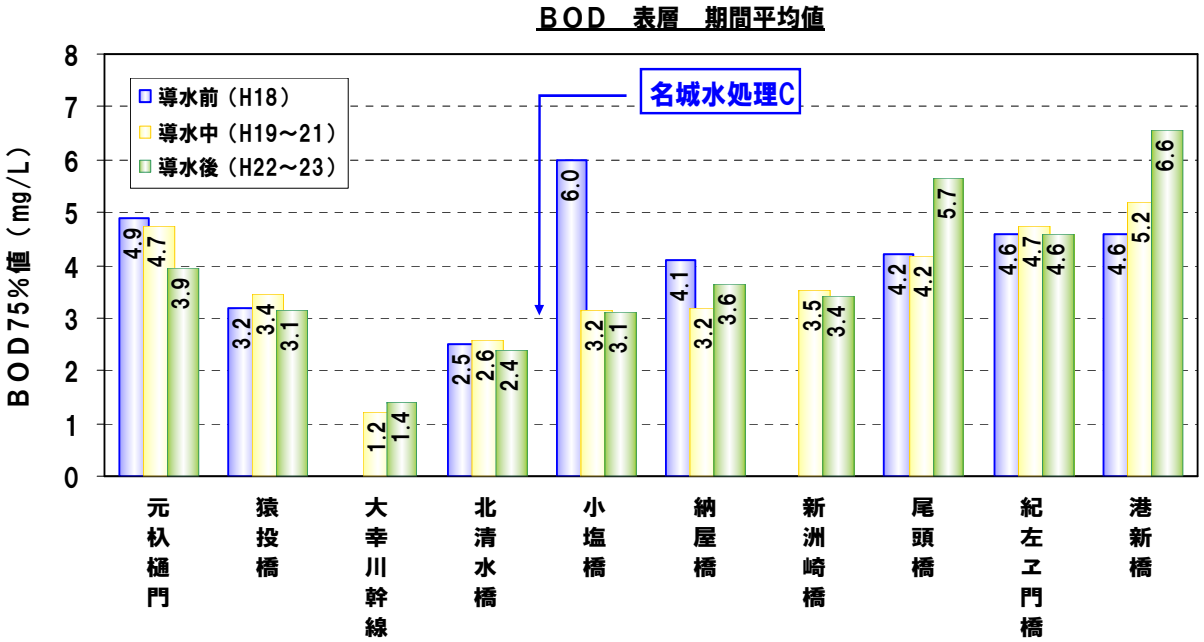
◇ DO



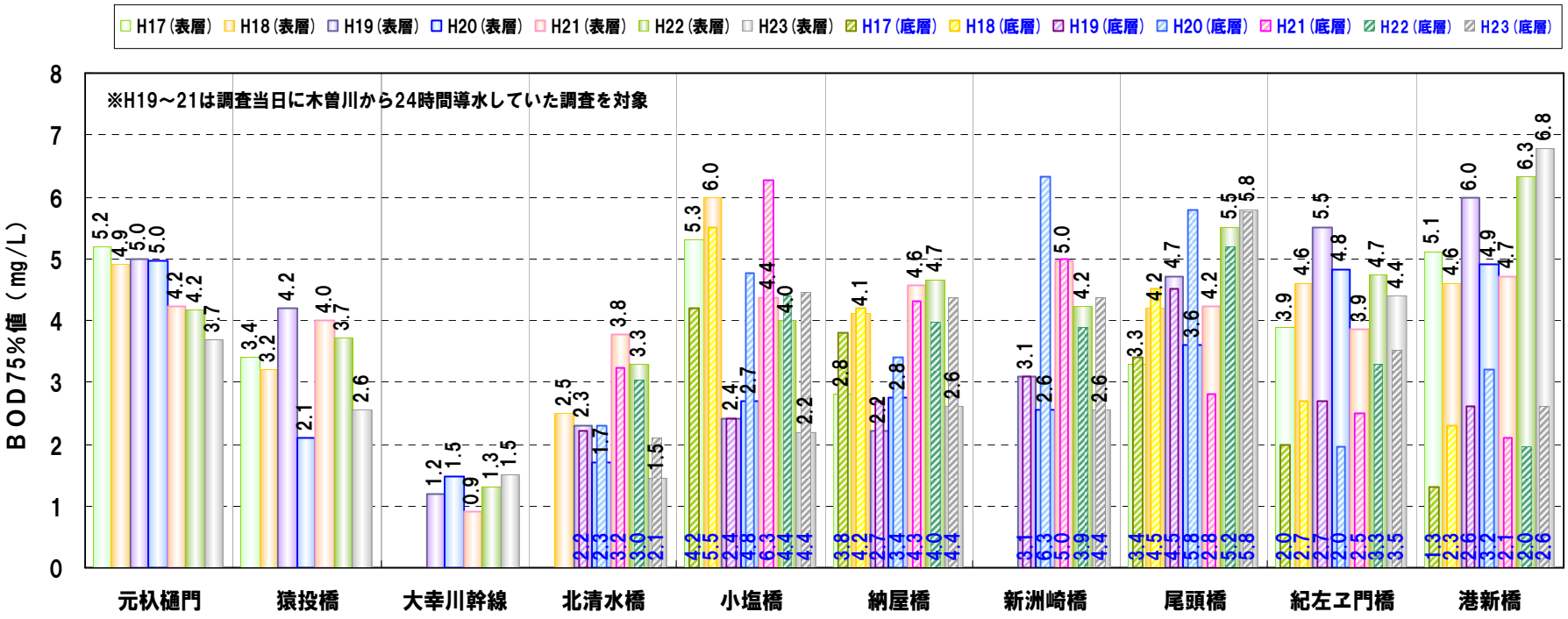
導水前：H18の定期調査
導水中：H19～21の定期調査のうち、調査当日に木曽川から24時間導水していた調査
導水後：H22～23の定期調査



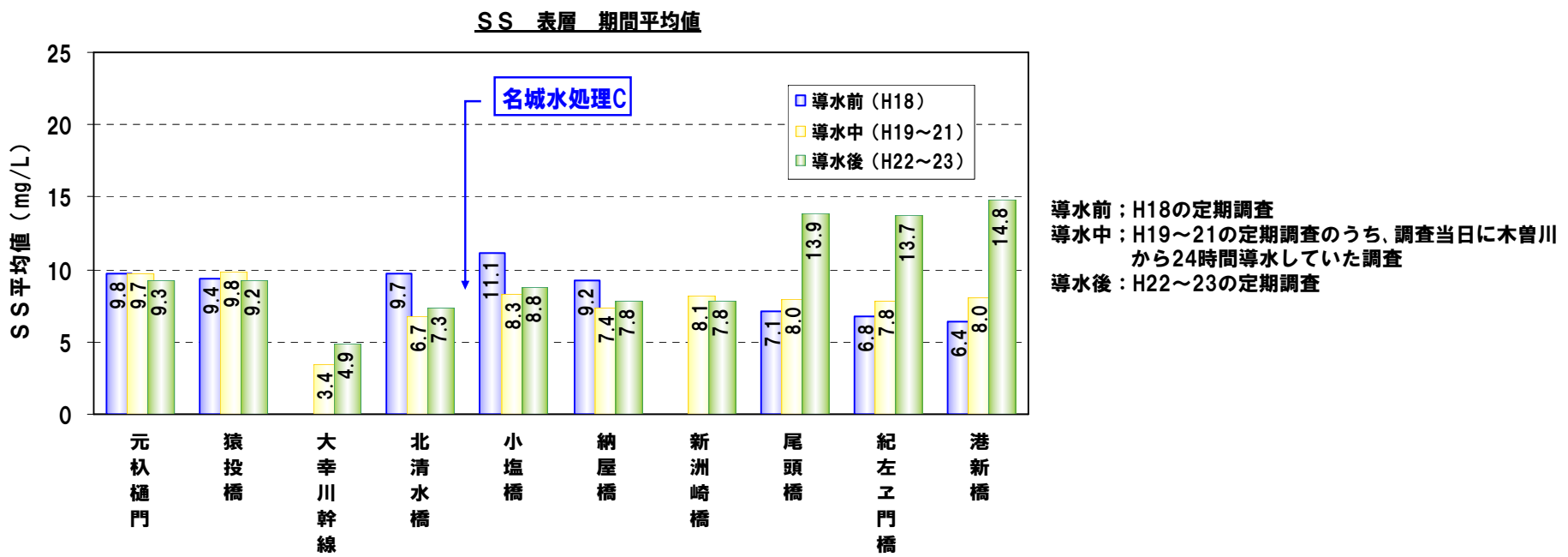
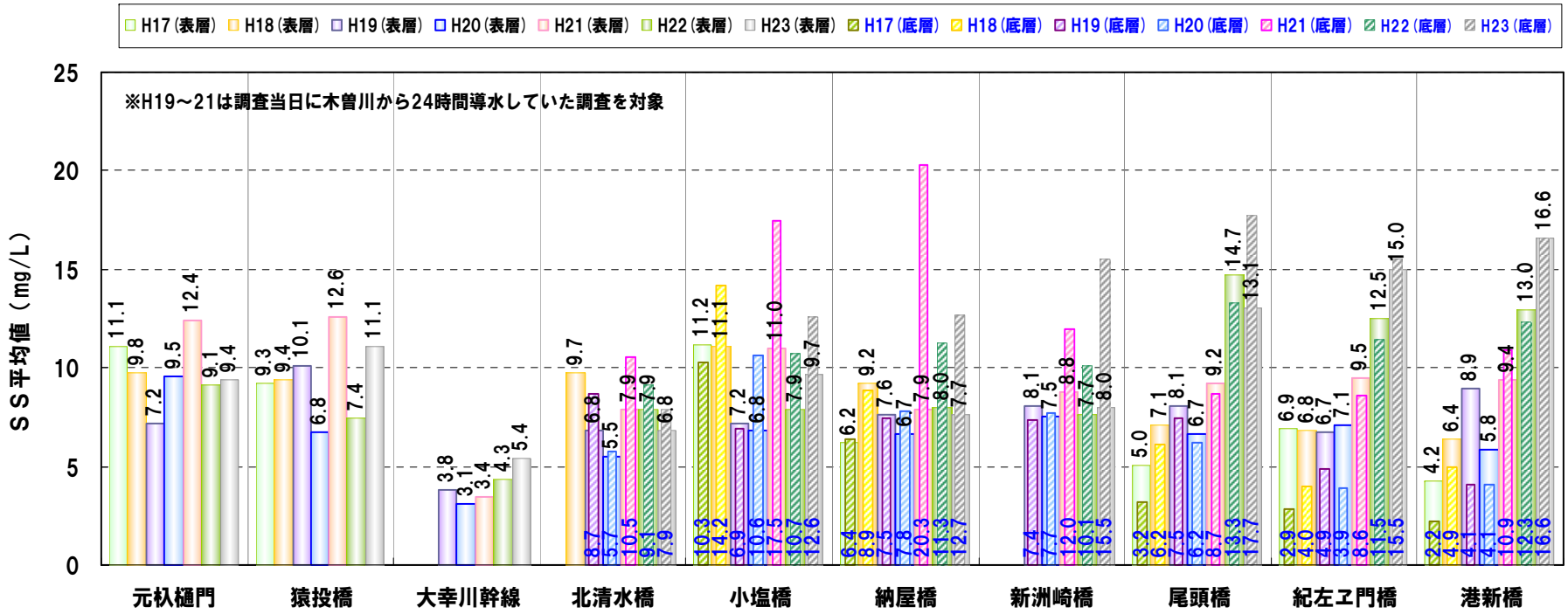
◇ BOD



導水前：H18の定期調査
導水中：H19～21の定期調査のうち、調査当日に木曽川から24時間導水していた調査
導水後：H22～23の定期調査



◇ ＳＳ



導水前：H18の定期調査
導水中：H19～21の定期調査のうち、調査当日に木曽川から24時間導水していた調査
導水後：H22～23の定期調査